

News Letter

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部ニュースレター

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部は、同窓会本部承認のもと2017年8月に創設されました。支部活動の一環として、東南アジア居住者のネットワークを広げる目的を掲げ2017年9月よりニュースレターを発行しています。このニュースレターが一人でも多くの同窓生に届き、ネットワークが広がっていくことを切に願っています。

VOL.9
APRIL
2020



CONTENTS

- 1. ご挨拶
- 2. お知らせ
- 3. 活動報告
- 4. 連載コーナー
 - 狙え！インスタ映え!?-第5回-
 - タイの昨今 -第9回-
 - トコロ変われば★談会-第2階-
 - ともに感じる東南アジア-第5回-

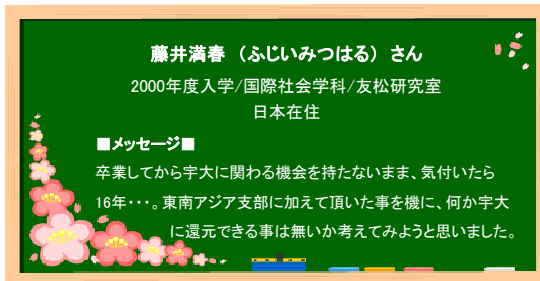
1 Greeting

ついに2020年のオリンピックイヤーを迎え、ワクワクドキドキの年を迎えたというのに、世界中では今なおコロナウイルス問題で落ち着かない日々が続いていますね。そんな憂鬱な中、朗報！東南アジア支部に新しい仲間が増えました！今後も同窓生ネットワークを広げるべく広報活動を続けていきたいと思ひます。

(大知美優紀/国社95、院・国社00)

2 Notification

現メンバー原理恵さんのご紹介で、日本在住の藤井さんが支部メンバーに仲間入りしてくれましたのでご紹介いたします！



3 Activity

カセサート大学 交換留学生 歓迎会開催
2019年9月21日(日)タイのバンコクにて、8月よりカセサート大学へ交換留学生として来タイされた、澤田琴乃さん(国際学部3年)、

丸山遥さん(農学部2年)を迎え、歓迎会を開催しました。お二人共にしっかりと目標をもって来タイされた様子に感心すると共に、タイでの学生生活が有意義なものになることを私たちも願っています。



左より、後藤先生、丸山さん、澤田さん、大宮さん奥様、右より、橋本さん(工)、大畑さん、大宮さんと息子さん

2019年11月23日(土・祝)、宇都宮大学にて「第5回ホームカミングデー ～お帰らない宇大へ～」国際学部イベント開催にあわせ、同窓会設立20周年記念事業として、座談会「同窓生が振り返る国際学部25年のあゆみ」が開催され、当支部ラオス在住の田邊知成さんがウェブ参加

されました。ウェブ初参加とあって、日本側の雰囲気を読めず、「どうして田邊さんは宇都宮大学国際学部を選ばれたんですか？」といういきなり質問に答えを窮してしまったなど戸惑いも多々あったようですが、ウェブ参加を通して、東南アジア在住同窓生の生の声(と顔)を届けられたことは、同窓生や先生方との距離を縮める貴重な第一歩

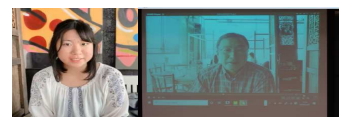


↑日本側から映し出されラオスから参加の田邊さんの姿
→タイよりビデオメッセージで参加くださった後藤先生(農学部名誉教授)とカセサート大学留学生澤田さん

宇都宮大学国際学部 第5回ホームカミングデー 支部WEB初参加!

になったと感じています。今後このような場があれば、積極的に国内外の同窓生との交流を深めていきたいと思ひます。

田邊さん、ありがとうございました!



1 Column

～ プラゴミ大氾濫に悩む東南アジア ～

皆様こんにちは。ふと気付けば東南アジアを取材して9年目に入りました、TVディレクターの谷澤です。今回は、いま世界的な課題となっている「プラスチックゴミ問題」についてお伝えします。

写真はマレーシアの首都KL郊外で撮影したもので、先進国から“輸出”された使用済みペットボトルや、リサイクルできない大量のプラゴミが野ざらしになっている様子です。およそ2年前に、世界のプラゴミ処理を一手に引き受けてきた中国が、突如としてプラゴミの輸入を禁止。その結果、行き場を失った大量のゴミが、規制の比較的ゆるいとされる東南アジアに押し寄せています。違法な処理業者が次々と出現、汚れたプラゴミの洗浄で周辺の水源地を汚染したり、秘密裏にプラゴミを焼却し住民に健康被害が報告されたりしています。一方インドネシアでもこうしたプラゴミの不法投棄が至る所で発生、ジャカルタ港にも1,000を超えるゴミを満載したコンテナが滞留中です。取材現場では日本語のパッケージをまとったゴミも多く見られました。「コストが安いからと言って、自国のゴミを経済力の弱い国に押し付けるのは間違っているのではないか。プラゴミが“リサイクル”されているというのは、先進国側の思い込み、神話に過ぎないのです」。こう語る地元NGO代表の声は怒りに震えていました。割合は低くも、適正に再生処理される種類のプラゴミもあるだけに、一筋縄ではいかない問題です。###



インスタ映え!?

アジア取材雑記

第5回



(谷澤社一郎/国社02)

第9回

◆タイの昨今◆連載コラム◆



～タイの塾はフルサービス～

5月から小4になる息子。今までは放課後に学校の補講授業(有料)を17時頃まで受けていましたが、小3の後期から学校近くの塾に通い始めました。学校の周り、半径約200メートル圏内には塾やカフェ(親の待機場所)が立ち並んでいるのですが、その中でもこの塾は、塾長が息子の通う学校の元教師ということが売りで、さらに少人数制とのこともあり、小1～高3まで多くの生徒が通うなかなかの人気塾なのです...が、それ以上の売りがあると知ったのは、通い始めてから。授業時間は放課後17～19時。19時まで頑張るために、なんと、タゴ飯の提供サービスがあるのです! 通常駄菓子屋のスペースが、授業が始まる前に食堂

と化し、個々のリクエストに合わせて、料理担当のおばちゃんがワンプレート料理をせつせと振舞ってくれます。このサービスがなければ子供は適当にお菓子で腹を満たすでしょう。。有料とはいえ、本当にありがたい。それから、基本は平日の夕方みの授業ですが、試験前の土日は半日集中講座を開いてくれたり、平日の試験休み期間中も夕方まで子供を塾で待機させてくれます。特に平日の試験休み期間中の子供の待機場所確保は悩みの種で、我が家も以前は夫の職場にこっそり連れて行ったり、行きつけのナーサリーに預けたりしていましたので、共働き

の親にとっては本当にありがたいサービス。また、自宅を開放したこの塾には料理担当のおばちゃん他、売店担当のおばちゃんが常に身近にいて子供たちに声を掛け見守ってくれているので、親としてはこれほどありがたいことはないわけで。とにかくありがたいこと尽くめで感謝感謝。とはいえ、19時まで塾なんてやっぱり息子は寂しい思いしてるかしら・・・とある日罪悪感にかられ慌てて迎えに行ってみたら、なんてことない、保育園女子に囲まれて楽しくやりました笑。



(大如美優紀/国社95、院・国社00)

トコロ変われば
ザ★談会
第2回

あなたのお住まいの地域事情
教えてちょーだい!

コロナウイルス問題、
日常生活、街の様子はいかが?



Q1. あなたの住む地域の様子はいかがですか?

週末は、デパート客が少ない一方で、業務用スーパーなどは米、乾物などの保存食を買い込む客でごった返していましたが、昨日スーパーに行ったら、食品棚は空っぽ状態になっていて、私も改めて事の深刻さを実感しました。マスクはどこに行っても売っていないのですが、消毒ジェルはスーパーやレストランの出入りに置かれていますので助かっています。最近ではコロナ保険がネット販売が開始され、契約を求める客でネットはパンク状態の様子。また、エレベータには階を押すために、爪楊枝が用意されるようになりました。今までに経験したことのないような異様な雰囲気です。(3/17時点)



感染防止の為に人が集まらないように、とのお達しなので大きなレストランは予約が入らず大変のようです。小規模店もいつもより人は少ないようです。普段の買い物等の外出はみなさんいつも通り。徐々に春めてきましたがイベント自粛なのでお花見も難しくそうです。(3/12時点)



ラオスはCOVID確定者がまだ0人で、動きも鈍かったのですが、今週に入ってから動きがかわたなくなってきました。日本からの入国者に2週間の行動観察を要請したり、ラオス国内での大規模集會自粛を要請したりするよう事態になっています。年に一度の日本語スピーチ大会を控えていたのですが、この影響で中止となりました。出場予定者は一生懸命練習を重ねているさなかでしたので、とても残念です。(3/4時点)



Q2. 実際あなたの日常生活に影響は出ていますか?

5月半ばの新学期までの2か月半、この時期行われるサマースクールやイベントがすべて中止されたので、我が家も8歳の息子をナーサリに預けています。2か月半遊び惚けさせていいものか、悩みの種ですが仕方ありません。GWの時期に1年ぶりの日本一時帰国を予定していましたが、キャンセルせざるを得ないですね。4/13-15のタイ正月休暇も延期が発表され、しばらくは週末も自宅待機を余儀なくされそうです。(3/17時点)

ふむふむ

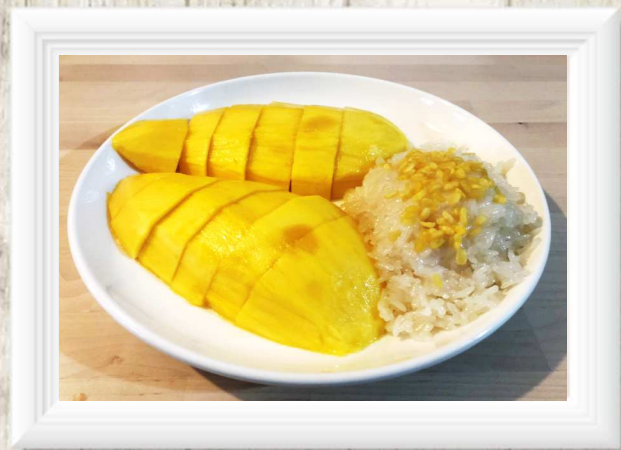


マスクはまだまだ品切れ、トイレトペーパーも一時品薄騒ぎでしたが個人的には今のところ大丈夫です。(バンコクのデモや洪水の時の方がストレス大きかったかな...) この数週間は自宅勤務テレワークとなりました。良し悪しありますが、今後働き方見直しのいい機会になっているのでは?と感じます。通勤電車の時間がセーブできたことは皆助かっていると思います。(3/12時点)



本来、今は来年度派遣の研修のため日本にいるはずでしたが、日本での研修がキャンセルとなりました。他の派遣専門家とも顔を合わせることでできる数年に一度の機会なのですが、研修が流れて残念です。ラオス国内の生活ではまだ影響はマスクの品薄くらいですが、市内のレストランで「日本人は出て行け」と言われた事例があったそうです…。(3/4時点)

世界中が目に見えないウイルスに怯え、日常生活や経済活動に制限がかけられてきましたが、まさかこんなことが現実になるとは思いもしませんでしたね。どの国でも新年度を前に年度修めや新年度の年中行事がキャンセルされ、今は忍耐の時の様子。早く終息することを願って、当たり前の日常が戻りますように。



タイ・バンコクの自宅にて撮影

大宮 勇樹 (国社07)

お楽しみのカオニャオママアマン餅米マンゴの季節到来。この魅惑の味は誰もが病みつきに。

ともに感じる東南アジア

第五回

東南アジアの現状、想いを共に発信していく仲間(国際学部・院同窓生)を募集しています!

東南アジア域内在住同窓生・元留学生・東南アジア域外在住で東南アジアに関わりたい、関わっていきいたい同窓生(通称ファンクラブ)の皆様など、興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局兼ニュースレター編集係 大畑 (miyukiohata@gmail.com)までご連絡ください。

数多くの同窓生からの声をお待ちしています!

